

平成23年度 第10回 石野地域会議 会議録

日 時：平成24年1月13日（金） 午後7時～午後8時30分

場 所：石野交流館 大会議室

出席者：地域会議委員18名（欠席者2名）

会 長 中根源博

委 員 井原正哉 上田淳史 梅村 薫 大津光博 河原和子
河原美枝子 小池すえ子 近藤一夫 清水忠雄 城金茂樹
鈴木知里 鈴木正臣 鈴木昭彦 西川嘉一郎 坂 春孝
三宅正志 森 繁喜

猿投支所 天野繁和 篠田博 澤田亜紀 鈴木英之

傍聴人：なし

次第

- 1 地域会議会長あいさつ
- 2 わくわく事業採択団体訪問の報告について
- 3 平成24年度地域会議年間スケジュール（案）について
- 4 竹林研究講演会（平成24年度地域予算提案事業）の開催日について
- 5 地域課題の検討
- 6 事務連絡

議事（要約）

会長

中根会長あいさつ

報告 わくわく事業採択団体訪問の報告について

○石野を変える会【三宅、森（繁）、森（昭）委員】

（12月3日ほか訪問）

委員

資料の印刷に費用がかかるため、事業予算のやりくりが苦
労しているようだった。設立総会に参加したが、若い世代の
人たちの参加が大事だと思った。

○小峯老人クラブ 花咲く良い里づくり実行委員会【中根、
西川、坂委員】

（11月22日訪問）

委員

訪問日は寒い日であったが、15人程度が活動に参加し、
女性の割合が多かった。ラジオ体操の後、男性は三叉路わき
に、視界の妨げにならぬよう低木のつつじを植え、女性はほ
かの場所で、葉牡丹を植えた。参加者の中には庭師経験者も
いて、植栽の指導をしていた。クラブでは地域を花でいっば
いにし、子どもたちへの贈り物にしたいと考えている。

協議1

平成24年度 わくわく事業募集要項等について

⇒事務局案どおりとする。

協議2

平成24年度地域会議年間スケジュール（案）について

⇒事務局案どおり（毎月第4火曜日開催）とする。

協議3

竹林研究講演会（平成24年度地域予算提案事業）の開催日
について

⇒事務局案どおり 6月2日（土）9:30～12:00の開催
とする。

委員

講義の定員140人と実地研修の定員40名に差がある

が、講義に参加した人が、全員その後の実地研修に出席できると良い。

事務局

⇒全員参加できるよう講師と相談する。

【連絡事項】

石野を変える会より

石野を変える会だより創刊号の紹介と1月18日実施予定の飛島村立飛島学園（小中一貫校）の視察について情報提供を行った。

協議4

地域課題について

【石野地区の将来構想部会】

部会長

資料「石野将来構想策定工程」について説明。

市役所で保有しているデータについては、極力提供をお願いしたい。

事務局

⇒了解した。

部会長

資料「石野地区に立地する事業所の状況等」について説明。

部会長

資料「参考情報（石野地区の人口状況）」について説明。

部会長

資料『「望ましいまちの将来像」アンケート分析』について説明。…高齢化率の高いところは、「保健・医療・福祉の充実」が求められており、高齢化率の低いところは「子どもたちが健やかに成長できるまち」が求められている。

部会長

資料「生涯各段階における主な出来事と石野から転出を検討する機会可能性」について説明。

委員

〈主な意見〉

・将来構想策定工程のためのメニューが多く、言葉だけで終わらないか懸念がある。的を絞ったほうが良いのかもしれない。

委員

・土地開発のコンサルタントの意見も聞きたいと思うが、個別の案件は利害が絡むので敬遠される。

委員

・個別の土地の状況が判明しても、石野では家を建てられるところが少ないので、難しいと思う。

委員

・土地に関する規制は厳しいという実感がある。昨年の特例養護老人ホームの誘致は選外だったため、次の候補地を見つけた。誘致の条件は、4m道路に接道していること、水道本管が75mm以上であること、一定エリア内に消火栓と防火水槽があることであり、これらを満たさない場合は、事業者が整備することになっている。道路通行量によっては、幅員の拡大も必要になる。

委員

・開発の条件は施設によって異なる。採算性を考えると、民間による宅地造成は難しいと思う。まず大まかな土地規制の状況の調査をすることは有益であると思う。

成合と勘八は特に農地の規制が厳しい。ただし農業委員会の権限で青地農地を廃止できるはず。

委員

・規制の現状を確認する必要がある。

委員

・災害の一時避難場所となっても危険な場所がある。このことへの対処は、（将来構想以前に）緊急ではないかと

思う。一時避難場所の考え方について防災防犯課に確認する。

部会長

資料「地籍調査」について紹介。…自治区単位で申請すれば全額公費（国 50%、県 25%、市 25%）で、測量と登記が行われる。申請すれば 10 年後くらいに実施される見込み。

【防災・防犯部会】

それぞれ「個人」「地域」「行政」がやるべきことについて、これまでに話し合ったことを事務局で意見をまとめた。再度「個人」「地域」がやるべきことで、不足している解決策や提案について意見交換した。

<主な意見>

委員

・過去に学ぶ点では、昔話で津波を知らせるのに稲わらを燃やして「火事だ」と叫び高台ににげて村人が助かった話がある。

委員

・47 災害などのことも長老に話を聞いたことがない。

委員

・体験談を聞いてみるのも良い。

委員

・豊田市でも過去のことはわかるか

事務局

⇒ 雨量など記録としてあると思う。

委員

・石野地域であったことをマニュアルの中で少し触れてみては。

委員

・個人でも3日間分を備える必要があると思う

委員

・体験された人の話、意見を聞いてみる。

委員

・昔、富国橋付近で木材の流木でせき止められ、一時的にダムになった。そこで逆流して水が上流側へ流れ何もできなかった。その後せき止められていた場所は、一気にダムが決壊したような形で流れた。

委員

・集中豪雨があると調整的な役割を担っているはずのダムだが、放流のタイミングが悪いと状況が悪くなることもある。

委員

・矢作川の床底を浚渫し、下げてもらった。

委員

・集中豪雨などでもダム放流の放送がかかっても経験がないといつ逃げていいのかもわからない。

委員

・多額な予算で行政が防災無線を設置したが機能しない。

委員

・近くで聞いた人が近所の人に伝えるしかない。限界がある。

委員

・石野の中でも地区ごとに危険な場所が違う。避難場所も安心できない。

委員

・地域により違うタイプの災害がある。

委員

・一時避難場所は自治区で安全なところを考えないといけない。

委員

・避難経路の途中にも避難所の看板などはない。

委員

・となり近所のひとり暮らしの人の状況も最近はプライバシーの問題がある。

委員

・訓練でも消火訓練はマンネリ化している。だが、消火器の使い方は大切。いざというときあわててしまう。

委員

・藤沢は、各家庭に有線でスピーカーが設置されており、電源が切れなければ、連絡することが可能。

事務局

・勘八では防災関連のパンフを作成し、全戸へ配布する。その中から必要なものをイメージできるように案として皆さんに配布した。マニュアルを作成するという提案が多いので、これを基に

今後検討してもらえばよい。

委員
委員
委員

- ・自治区ごとに危険箇所を示したマップを作る。
- ・各家庭で防災マップを見て避難経路を考える。
- ・防災のマニュアルやマップは配布するだけでなく、作成したものを使って毎年1回訓練するとよい。

委員

- ・自主的にやる訓練は長続きしない。強制的なくらいにしないとだめ。

委員

- ・今年度は、問題点や解決策などを研究してきたが、来年度は、マニュアルに23自治区のア案を用いて内容を加除し、石野版のマニュアルの作成や、これまでの一覧を継続して検討していく。住民の意識が高まるように、マニュアルも加除できるようなことも検討したらどうか。

事務連絡

次回の会議について

平成24年2月10日（金）午後7時～

石野交流館 大会議室

主な議題：地域課題について